



ゆくて遥かに

令和2年11月30日(月)

第135号

長野県松本深志高等学校長

第3回信州大学連携ゼミ(11月21日)

一年生対象の信大連携ゼミ第三回が、21日の土曜日に行われました。信大の先生方と大学生・大学院生(アシスタント)による、60分3コマのゼミ形式の授業です。今回は、「建築とまちづくり」ゼミと「松本の地質環境と自然災害」ゼミが市内にフィールドワークに出かけました。たっぷり3時間の、徒歩による現地調査。また、「スポーツとインクルーシブ社会」ゼミは大体育館で障害者スポーツの実習を、「ミライノカガク」ゼミは音楽室で音階と数学の関係をピアノ等で確認していました。連携ゼミは12月まで、残すところあと2回。各ゼミでは生徒同士で議論したり、発表したり、と探究的な学びを深めるいろいろな動きも出てきました。



図書館ゼミ開催される(11月20日)

今年度はコロナの影響もあって、なかなか例年どおりに開くことができない図書館ゼミが、20日の放課後、行われました。今年度初の講演会形式のゼミ、講師は本校英語科の大林先生です。今年のとんぼ祭でベストティーチャーに選ばれていて、満を持しての人選です。テーマは「科目名『人生』」、学生時代のホームステイの経験談や結婚相手の選び方について、合コンの勧め、子育てや母親の看護の話など、笑いあり、涙あり、ユーモアあふれる軽妙洒脱な語り口で、期待した以上に踏み込んだ内容にも時折触れながら、50名弱の聴衆をぐんぐん引き込んでいきました。生徒からの質問もいくつか出て充実の90分間。普段の授業では聞くことができない内容で、大林先生の考え方、人生観、人となりを知ることができる貴重な機会となりました。参加生徒も大いに満足したことでしょう。



第7回鼎談深志行われる(11月17日)

通算第7回となる松本深志高校地域フォーラム「鼎談深志」が17日の放課後、教育会館で行われました。今年で四年目を迎えたこの取り組み、最初は学校が出す音の問題について、地域の方々と生徒とで話し合いの場を持ったことがきっかけでした。高校生活の中の身近な課題を解決するために、地域の代表(自治会長)と率直な意見交換をし、お互いの理解を深める中で具体的な解決策

を見出し実践を重ねる、その仕組みづくりとして「鼎談深志」があります。また、生徒が地域の方々との関わりの中で高校が存在していることを自覚するきっかけにもなっています。音楽部やダブルダッチ部等に発表する場を、地域から与えていただいたり、納涼祭に参加させてもらったり、交流の機会も少しずつ増えています。お互いの顔が見えることが、良好な関係を作るためには必須の要因だな、と改めて実感しています。現在の課題は送迎車の駐停車問題と、目前に迫った今年のクリスマスコンサートをどうするか。コロナ禍の中でどのような対策を取ってコンサートを進めるのか、こちらは次回への宿題となりました。



KDDI 共創プロジェクト (11月13日、24日)

このプロジェクトが立ち上がってから、ほぼ毎週のペースで、生徒・KDDI・エイブルデザイン・教員の四者による話し合いが続けられています。学校のホームページにおいて、生徒が主体となって定期的に必要な情報を発信していくためにはどのようにしたらいいか、の検討会。生徒からは次々と要望が具体化され、それらをいかに実現に結びつけるか、みんなで知恵を絞って考える探究的な学びの時間です。

その他の話題をいくつか

★ 17日の放課後、地学会がしし座流星群の観察を行いました。場所は1棟屋上。この日の20時頃に流星群の活動が極大となるとの予測でしたが、結果は「5個くらい見えた」そうです。防寒の準備を万全にしての晩秋の夜空観測。例年ならば、そのまま夜を明かしての会となるのですが、今年は感染症のことや翌日の授業も考えて



21時までには終了となりました。次はふたご座流星群の観測だそうです。

★ 19日のLHRの時間に、一年生がポスターセッションを行いました。総合的な探求の時間の中間報告としての取り組みです。信大連携ゼミも先週までに二週続けてあり、一年生は大忙しです。

★ 今年も難関の化学グランプリに7名の3年生が挑戦しました。一次選考の結果、二人が全国からの参加者1640名の上位10%以内に入る成績だったとのこと。チャレンジする精神が素晴らしいです。



今週の予定 (1・2年通常授業、3年前期特編授業)

日	曜日	行事等	その他(主に校長動向)
30	月	3年前期特編授業(～1/15) 終始業式 学年会	
12/1	火	午前特曜授業	校長会用務
2	水	職員会	
3	木		松本市懇談
4	金	生徒大会	
5	土	GTEC	
6	日		
7	月	学年会	中信地区校長会

